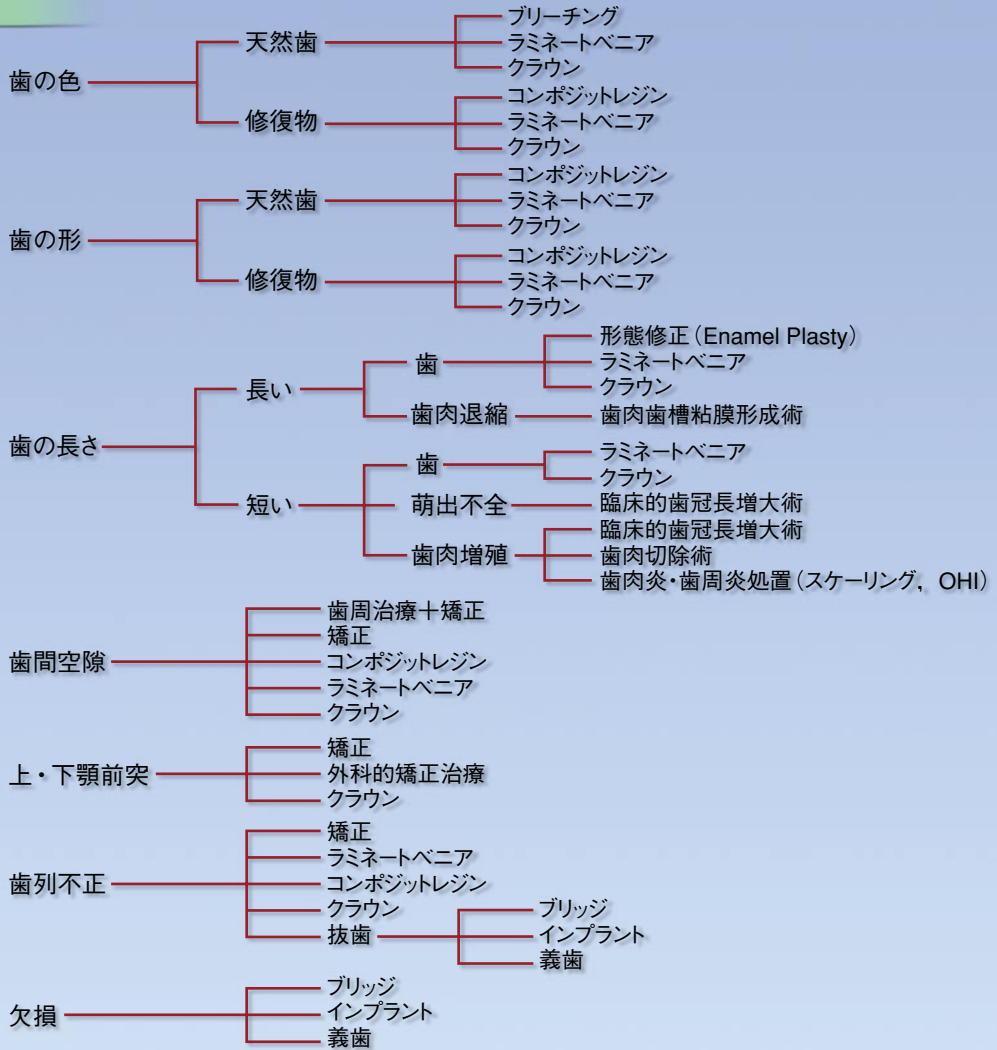


歯



歯肉

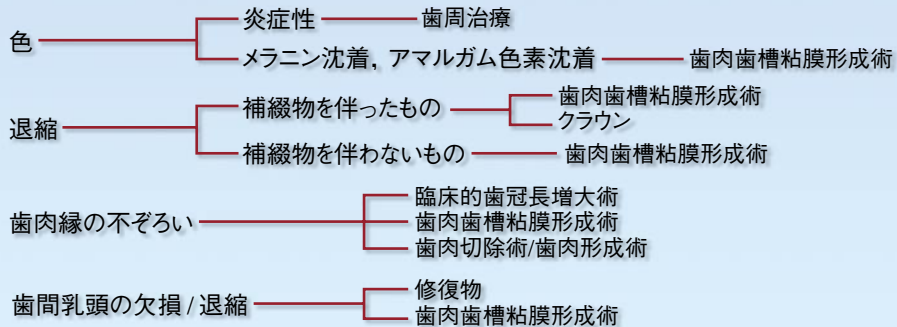


表 2 症状による治療の選択肢



a 咬耗と齶蝕で広範な補綴処置が必要



b 萌出不全. 歯周外科で審美が回復できる

図 7a, b 同様に歯冠長の短いケースだが, その原因によって治療は大きく違う



図 8a, b 歯列不正のケース. 抜歯と局部義歯により審美を回復した

- (1) 要望
- (2) 歯科治療の理解度 (デンタルIQ)
- (3) 支払能力
- (4) 健康状態, 慢性疾患
- (5) 通院期間
- (6) スケジュール
来院時間 (チェアタイム), 頻度

表 3 治療計画に影響のある患者側の要因

しいとか, 近い将来, 妊娠を望んでいたり, 転職の可能性があるので長期にわたる矯正治療が不可能であるといった理由により, 治療計画の変更を余儀なくされることもありうる. 常に理想的な治療計画どおりに治療が行われるとはかぎらないことを認識すべきである.

最終的な治療のゴールを, 患者, 歯科医師双方が理解して, はじめて治療を開始するべきであろう.